

## 国内経済情勢

### 概 観

欧米諸国におけるインフレーション抑制対策ないし国際収支改善対策の推進を背景に海外諸金利はこのところ一段と上昇しており、国際経済金融の先行きは楽観を許さない。

一方国内経済動向をみると、5月の生産は前月の記録的著伸のあとをうけ小幅の減少となったが、ならしてみればかなりの増勢をたどっている。また総需要も個人消費、設備投資の堅調を中心に根強い拡大が続けている。このような情勢を背景に海外価格の上昇も加わって、商品市況は総じて強含みを示し、卸売物価は春先以降かなりの騰勢を持続している。この間労働力需給も引き締まり状態を続け、春季のベース・アップや夏季ボーナスが前年を大きく上回るなど、賃金の上昇傾向が強まっている。

企業の資金繰りは、金融機関貸出の相当な増加、財政支払額の増大などの諸事情を背景に総じてひとところに比べやや余裕含みとなっている模様であるが、借入れ需要は引き続きおう盛で、資金調達については先行き必ずしも容易ではないとみる大企業が少なくないよううかがわれる。

5月の国際収支は、総合収支で211百万ドルの受超と引き続き大幅黒字を示した。季節調整後の貿易収支も、多額の黒字が続けている。ただ輸入の先行きには漸増気配がうかがわれる。なお国際的高金利を映じた海外短資の取入れ残高の減少から、為替銀行の対外短期ポジションが大幅に改善したため外貨準備は微減となった。

生産、出荷の実勢は根強い増加基調

鉱工業生産(季節調整済み)は、4月に前月比+6.0%の記録的な著増のあと、5月(速報)はさすがに-0.9%の減少となったが、ならしてみるとかなりの増加基調にある。当月の減少の主因は、前月大幅に増加した一般資本財、建設資材の減少にあり、とくに化学機械等大型機械類の反動減が目だっている。一方耐久消費財や生産財は小幅ながら根強い増加を続けた。

鉱工業出荷(季節調整済み)は、3月、4月に前月比各+2.8%と相当な増加を続けたあと、5月(速報)は-0.3%の微減となった。もっともこれには船舶の著減が相当影響しており、例月フレの大きい船舶、鉄道車両、食料品を除いてみると、前月の+3.0%のあと当月も+0.8%と根強い増勢を示している。財別にみると前月大幅に増加した耐久消費財が微減となった反面、非耐久消費財がかなり増加し、また一般資本財、建設資材、生産財等も小幅ながら続伸した。

一方製品在庫は、4月は+2.5%の増加を示したあと、5月(速報)もクーラー等耐久消費財の増加を主因に+0.5%と増加し、製品在庫率指数(92.9)も前2か月低下のあと再び若干上昇した。もっとも、例月フレの大きい上記3品目を除いてみると、製品在庫率指数はごくゆるやかながら引き続き低下を示している。

設備投資と関連の深い一般資本財出荷(季節調整済み)の動きをみると、年明け後やや伸び悩んだあと、4月に前月比+5.3%、5月(速報)は+0.5%とこのところかなりの増勢を示しており、設備投資は根強い増勢が続けているものと思われる。

この間、労働力需給は引き締まり状態を続けており、本年の新規学卒者に対する求人倍率は、中学卒、高校卒とも前年をかなり上回っている。また今春の高率のベース・アップに続き、夏期ボーナス支給額も前年を大きく上回るなど、このところ賃金の騰勢は一段と強まりつつあるようにうかがわれる。このような賃金所得の増大などを背景に個人消費は堅調に推移しているものとみられ、関連指標の一つである全国百貨店売上高は5月に衣料品を中心に前年同月比+21.2%と高率の伸びを示したが、6月にはいつてからも都内百貨店売上高は相当な増勢を続けている。

#### 卸売物価は続騰

最近の商品市況をみると、鉄鋼が引き続き落着き商状を示し、建材等も弱含みとなっている反面、非鉄が続騰し、また繊維、石油、化学製品、紙、砂糖等かなりの品目が強含みに推移するなど、底堅い動きを示している。

このような市況の背景には、一部の商品についてメーカーの市況対策の影響や海外相場の高騰などの事情も見いだされるが、一般に内外需要の堅調が大きく響いている。

本行卸売物価は、5月に鉄鋼、非鉄を中心に前月比+0.3%と4ヵ月連続の上昇を示したあと、6月上旬も前旬比+0.2%と続騰した。中旬は鉄鋼の上昇一服、木材の続落などから-0.1%の微落となったが、工業製品は強保合いとなっている。このように春先以降卸売物価がかなりの騰勢を続けている要因としては、需給関係が引き締まりぎみに推移しているのに加え、輸入品価格も上昇していることがあげられる。

一方消費者物価(東京)は、5月にくだもの、生鮮魚介等の値下がりを中心に前月比-0.3%と反落したあと、6月は野菜、生鮮魚介が値下がりの反面、住居費、光熱費が上昇したため、+0.1%の小幅上昇となった。なお季節商品を除けば5月

+0.3%、6月+0.2%と続騰している。

#### 金融機関貸出の増勢続く

5月の金融市場をみると、財政資金が外為会計の受超持続に加え、租税、専売の受入れ進捗により月中1,260億円の受超(前年同744億円)となった反面、銀行券は月中1,510億円の還収超(前年同1,645億円)となり、これに伴い月中若干の資金余剰を生じたが、本行は短資業者に対する政府短期証券の売却などにより対処した。

6月は銀行券が官民夏季ボーナス支払などを中心に大幅増発(月中3,126億円の発行超)となり、また財政資金も3月決算法人の業績好調などから租税の受入れが多額に上ったため、かなりの受超(1,171億円)となり、金融市場では大幅な資金不足を生じた。これに対し本行は、主として短資業者に対する政府短期証券の買戻しにより対処したが、市場は平靜のうちに漸次繁忙ぎみとなり、5月に低下した翌日物、無条件物のコール・レートは、6月28日以降日歩1厘上昇した。

銀行券の月中平均発行残高の前年同月比増加率は5月に+17.7%と一段と水準を高めたが、6月も+17.3%と高水準を続けており、銀行券は根強い増勢基調を示している。これは経済活動の拡大とくに前記のような賃金支払の増大、個人消費の堅調を反映したものとみられる。

5月の全国銀行貸出増加額は、3,893億円と前年同月(2,074億円)を大幅に上回った。これに伴い月末残高の前年比伸び率も3月+13.2%、4月+13.6%のあと、5月は+14.2%と徐々ながら増勢を強めている。業態別にみると都市銀行のほか、地方銀行、長期信用銀行など軒並みに相当の増加を示した。また中小企業金融機関の貸出も積極的な融資態度を映じて大幅な増加となった。

一方全国銀行実質預金増加額は、5,114億円と前年同月をかなり上回った(月末残高の前年比増加率3月+14.7%、4月+15.5%、5月+15.8%)。

このところ預金がかなりの増勢を続けているのは、銀行貸出の著増、財政支払額の増大、外資の取入れなどにより企業の預金が相当な増加を示しているためと思われる。こうした預金動向にもみられるように、企業の資金繰りは総じてひとところに比べやや余裕含みとなっている模様であるが、経済の根強い拡大を背景に、設備・運転資金ともに借入れ需要は引き続きおう盛であり、資金調達については先行き必ずしも容易でないとする大企業が少なくないよううかがわれる。

なお全国銀行の貸出約定平均金利は、4月には地方銀行の貸出金利が季節的事情から上昇したため、月中1糸の上昇となったが、5月は低利の決算資金貸出の増加などもあって1糸の低下となった。

この間公社債市況は、4月後半以降いくぶん回復ぎみに推移してきたが、6月中旬に至り、横ばいとなっている。また企業収益の好調持続や外人投資の盛行などを背景に、3月初以降一部の銘柄を中心にほぼ一本調子の急騰を続けてきた株式市況も、6月上旬末に東証第1部旧修正平均株価が最高値を記録したあと、高値警戒観の台頭から急落を示し、その後は激しい騰落をくり返している。

#### 国際収支は引き続き大幅黒字

5月の国際収支は、貿易収支の黒字幅がやや縮小したものの長期資本収支が3ヵ月ぶりにかなりの受超となったため、総合で211百万ドルの大幅黒字となった。貿易収支の黒字幅縮小は、季節的事情も相当響いて輸入水準がかなり上昇したことによるもので、季節調整後の貿易収支は354百万ドルの大幅黒字となった。長期資本収支の黒字

は、船舶輸出の不振から本邦資本の流出が小幅にとどまった反面、非居住者の市場経由株式投資や外債発行により外国資本の流入が多額に上ったためである。なお金融勘定では、国際的高金利を映じた海外短資の取入れ残高の減少から為替銀行の対外短期ポジションが216百万ドルの大幅改善を示したため、外貨準備は2百万ドルの微減となった。

5月の輸出は、前年同月比では前年同月の水準がとくに高かったこともあって、+14.3%とひとところに比し伸び率はかなりの低下を示したが、季節調整後の前月比では+1.2%とやや持ち直した。品目別(通関ベース)にみると、船舶輸出が前月に引き続き著減したほか、自動車等もその増勢は鈍化したが、合繊、テレビ等は好調が続いている。先行指標である輸出信用状接受額(季節調整済み)は、5月に前月比ほぼ横ばいのあと、6月はかなりの増加となったが、ならしてみればこのところ増勢はゆるやかとなっている。

一方輸入は、4月に季節調整後の前月比で-6.3%の減少のあと、5月は+5.7%の増加となったが、依然落着きぎみに推移している。品目別(通関ベース)にみると、原綿、砂糖、とうもろこし等が引き続き前年を下回っている反面、鉄鋼原材料が増勢を示している。先行指標である輸入承認額(季節調整済み)をみると、4月に特殊要因もあって前月比+24.7%の急増を示したあと、5月は-12.9%の減少となったが、ならしてみればかなりの増加傾向をたどっている。このところ輸入素原材料在庫率がかなり低下してきたこともあり、輸入の先行きには漸増気配がうかがわれる。

(昭和44年7月1日)